

次期学習指導要領の目玉：「統合・総合」はなぜ
評価の対象外？これで本当に機能する？
寺田拓真様（もと文部科学省、広島県総務局付課長）

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。
*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)



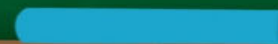
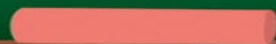
寺田拓真

てらだ たくま

広島県総務局付課長、福山市教育委員会学校教育
部参与、大阪教育大学客員教授

2004年に文部科学省に入省し、教育改革の司令塔、
教育投資の充実などを担当。2014年より、広島県教
育委員会に籍を移し、学びの変革推進課長として、教
育改革の企画立案と実行、県立広島叡智学園中・高等
学校の創設などを担当。2022年、ミシガン大学教育
大学院修士課程修了（学習科学・教育テクノロジー専
攻）。

著書に『教育改革を「改革」する。』（2023年、学
事出版）。



No409

申し訳ありません、戻って修正・補足します！

②補足Part2 現場の授業力に配慮 して高次の資質・能力は評価せず 現実対応、それで現場は変わるか？

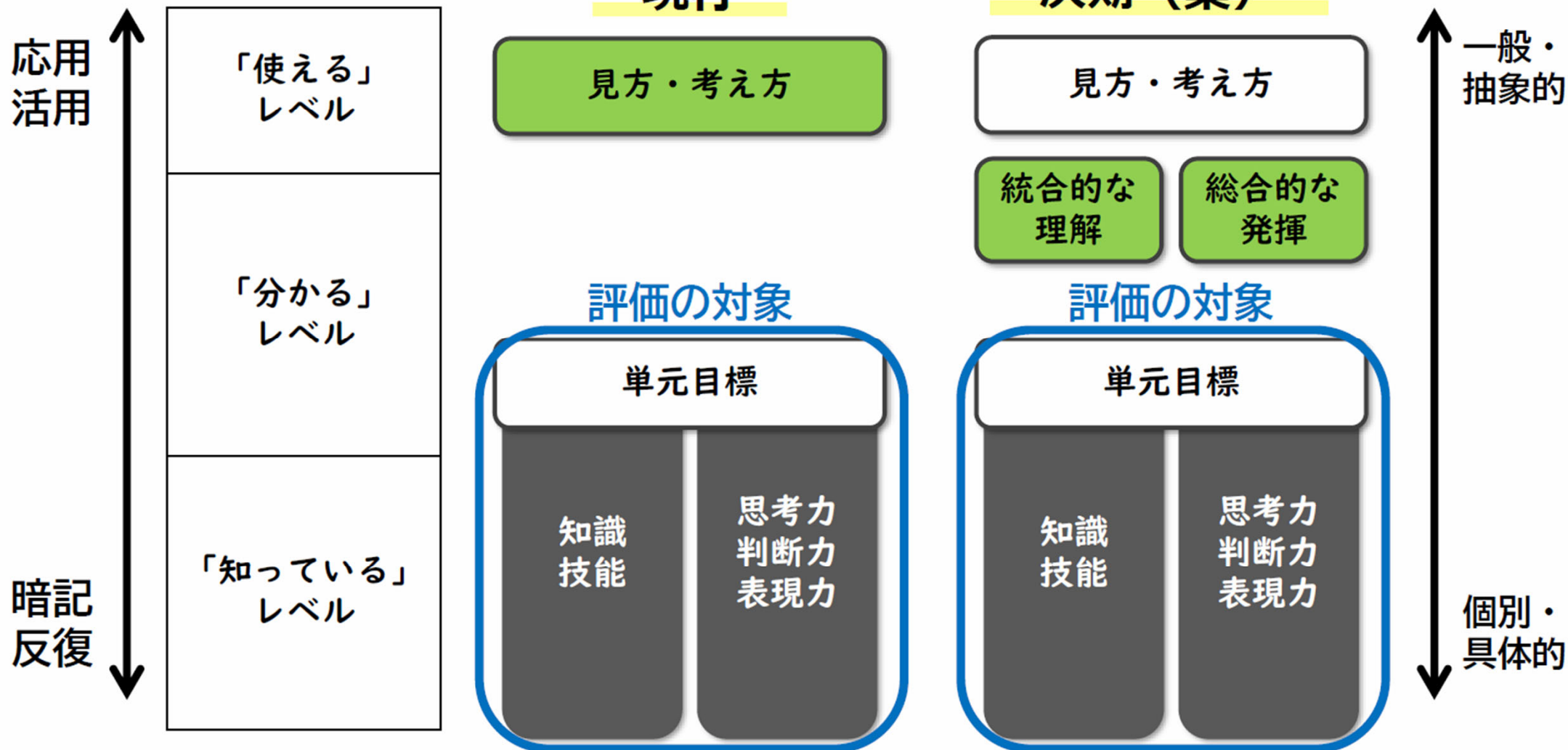
ここを押さえよう！

次期学習指導要領にむけた審議まとめ
の方向性(全5回シリーズ)



学力のレベル

学習指導要領の内容



(石井英真, (2020), 『授業づくりの深め方—「よい授業」をデザインするための5つのツボ—』 ミネルヴァ書房, を参考に筆者作成)

（３）「統合的な理解・総合的な発揮」の学習評価での取扱い

- 「統合的な理解・総合的な発揮」は、複数の内容項目を包括し、それらに共通する本質を踏まえた学びの「深まり」の姿を可能な限り分かりやすくシンプルに示すことができるように検討が進められているが、教科等によって特質が異なり、具体の案にも相応の差がみられる。
 - こうしたことを踏まえた場合、仮に「統合的な理解・総合的な発揮」の育成状況を、一律に、目標標準評価の対象として直接的に評価しようとした場合には、以下のような課題も考えられる。
 - 定量的・客観的な評価のために、具体的な学習の文脈や個別の知識・技能の統合的な理解等から切り離され抽象的な概念の暗記を問う課題等による評価が行われる恐れがあり、その場合「統合的な理解・総合的な発揮」を設定した趣旨と逆行してしまう
- （※）例えば、（問）化学反応においては、反応の前後で原子の数はどうなるか
（答）変わらない といった評価課題となる恐れがあり、そうした取組を防ぐため内容横断的なパフォーマンス課題例を国が示すと、実践の硬直化・画一化を招く可能性もある
- 育成したい資質・能力の本質をシンプルに示すために「統合的な理解・総合的な発揮」においては「何を」、「どの程度」といった到達水準を示していない（個別の内容において示されている）ため、具体的な評価規準の設定が難しい場合が多いと考えられる
 - 個別の内容に基づく評価を行いつつ、「統合的な理解・総合的な発揮」の評価も行うとなると、同一の内容について二重の評価負担を強いることとなる
- また、WGでの議論においては、「統合的な理解・総合的な発揮」を評価の対象とすることを前提に検討すると、「統合的な理解・総合的な発揮」に紐づく個別の内容を漏れなく網羅した示し方とする必要が生じるが、そうすると、学習内容の本質を端的な形で定義することは難しいとの意見も出ている。

- さらに、企画特別部会での審議で参考とした、「Big ideas」「核心概念」といったメタ水準での資質・能力をカリキュラム基準に位置づけている諸外国でも、それらを直接の評価対象としては扱わず、目標や内容の本質を示し、指導を方向付ける枠組みとして整理されている例が多い。
- 一方、教師が「統合的な理解・総合的な発揮」を活用して単元を構想し「深い学び」の実現に資する学習過程や評価課題を丁寧にデザインしていくことは極めて重要である。
- 以上を総合的に勘案すると、当面は「統合的な理解・総合的な発揮」の育成状況自体について一律に直接的な評価を行うことは求めず、「統合的な理解・総合的な発揮」は各学校における単元構想を含む指導・評価の計画や実施の質を構造的に支える役割を果たすものとして整理するのが適当である。
- こうした役割を果たせるよう、企画特別部会で議論されたように、画一的・硬直的な実践を押しつけるものとならないよう留意しつつ、国として「統合的な理解・総合的な発揮」等を活かした単元計画づくりの参考イメージを各教科等ごとに示していくことが重要である。
- また、各学校での単元の評価規準設定を支援するため示している各教科等の「内容のまとまりごとの評価規準（例）」は、今後デジタル学習指導要領で各教科等の内容や解説の記載と一体的に参照できる方向で検討されており、各学校が指導と評価の計画を作成する際に一層参照されやすくなる。
こうした重要性を有する「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を示す際、「統合的な理解・総合的な発揮」を踏まえて可能な限り学びの深まりを意識した記載ぶりとなるよう検討することで、学習評価の改善にも資すると考えられる。
- なお、今後「統合的な理解・総合的な発揮」を意識した授業づくりが進む中、「統合的な理解・総合的な発揮」の直接的な育成に加え、目標標準評価の対象とすることを目指すような、内容横断的なパフォーマンス評価などの実践の創出も期待される。そうした創意工夫を生かした多様な実践を促しつつ、文部科学省において積極的な研究開発・事例収集等を改訂後も継続的に進めるべきである。

次期学習指導要領の目玉：「総合・統合」はなぜ
評価の対象外？これで本当に機能する？
寺田拓真様（もと文部科学省、広島県総務局付課長）

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

それではご覧ください

教育改革「流星群」



学校教育と子どもたちの課題

① 動機付け (Motivation)

② 転移 (Transfer)

学校教育と子どもたちの課題

① 動機付け (Motivation)



② 転移 (Transfer)

不登校児童生徒数の推移

	2014	2019	2024
小学校	0.39% 255人に1人	0.83% 120人に1人	2.30% 44人に1人
中学校	2.76% 36人に1人	3.94% 25人に1人	6.79% 15人に1人

（「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」（文部科学省）より）

学校教育と子どもたちの課題

① 動機付け (Motivation)



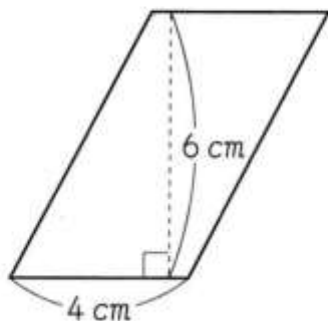
② 転移 (Transfer)

【平成19年度「全国学力・学習状況調査」】

A問題

次の図形の面積を求める式と答えを書きましょう。

(1) 平行四辺形



正答率

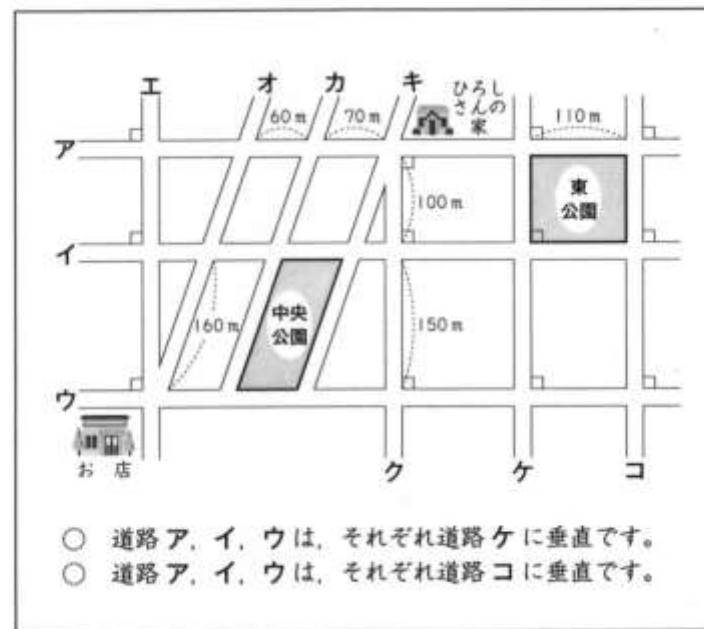
96%

B問題

(3) ひろしさんの家の近くに東公園があります。

東公園の面積と中央公園の面積では、どちらのほうが広いですか。

答えを書きましょう。また、そのわけを、言葉や式などを使って書きましょう。

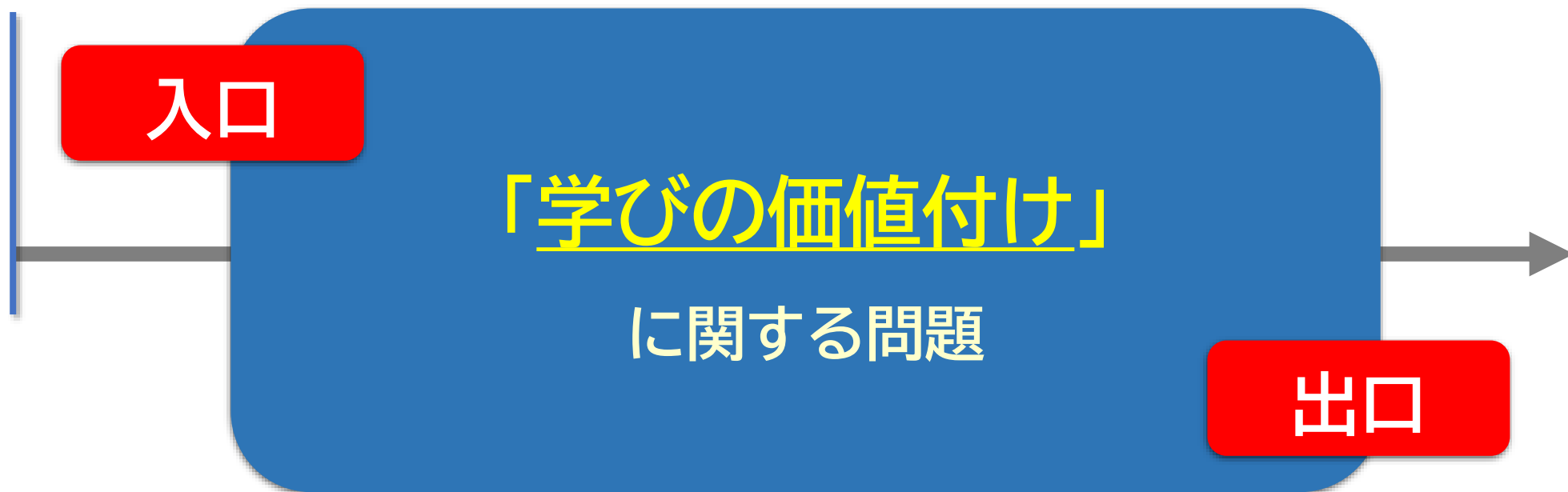


- 道路ア、イ、ウは、それぞれ道路ケに垂直です。
- 道路ア、イ、ウは、それぞれ道路コに垂直です。

18%

学校教育と子どもたちの課題

① 動機付け (Motivation)



② 転移 (Transfer)

学習理論 (BIG 3)

① 行動主義 (Behaviorism)

Know

→ 反復と報酬と罰則 (犬が「お手」→エサ)

② 認知主義 (Cognitivism)

Understand

→ 情報処理過程 (脳の働き / 知識の変容) に着目

③ 社会構成主義 (Social Constructivism)

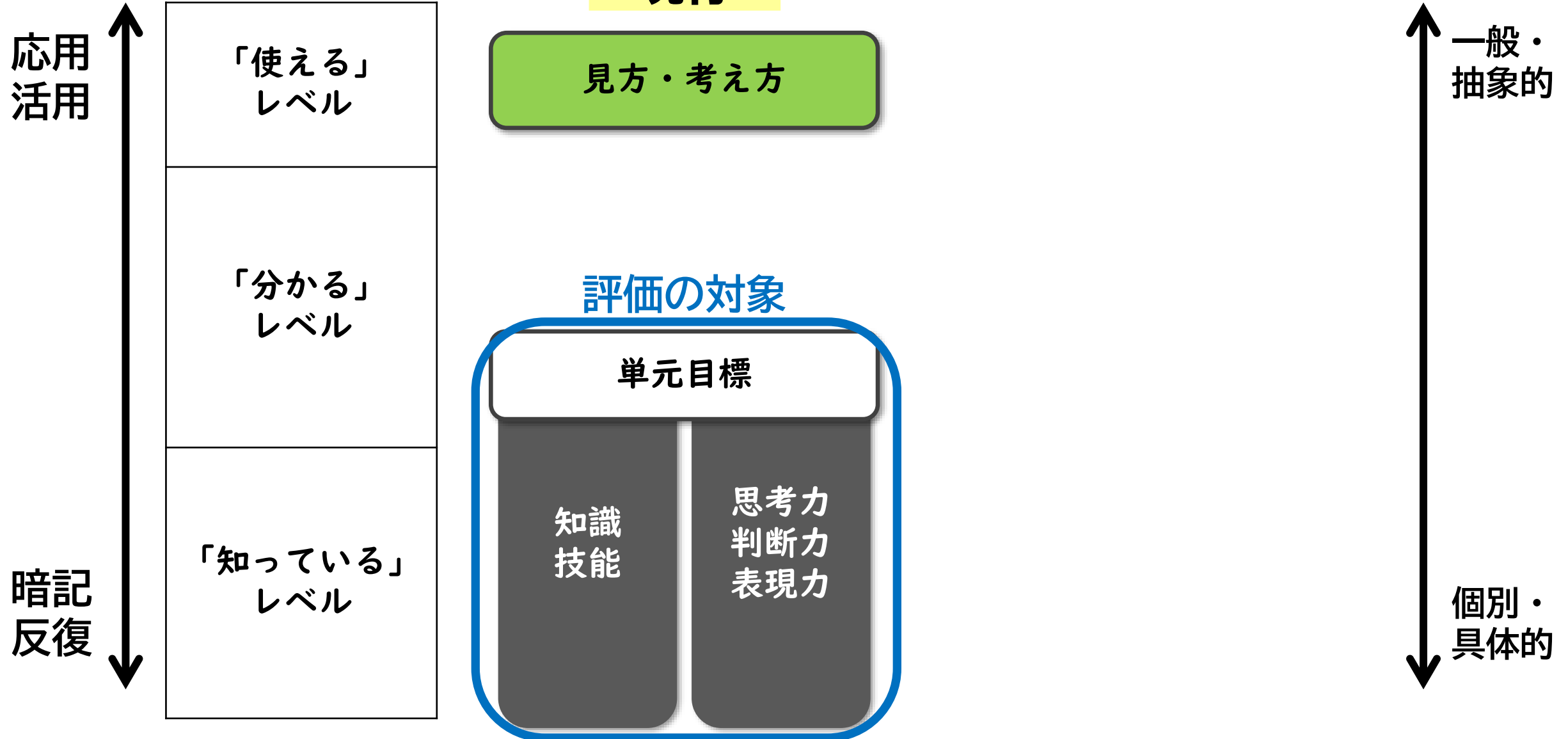
→ 学習者が知識を意味付け・価値付け

Make sense

(生徒のアイデンティティや文化、文脈と関連)

学力のレベル

学習指導要領の内容





サッカー

ドリブル練習

パス練習

シュート練習

ドリブルテスト

パステスト

シュートテスト

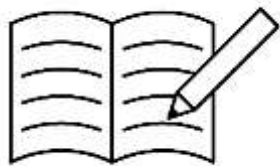
組み合わせ練習

& テスト

(ex. ドリブル
→シュート)

ミニゲーム

試合



勉強

???

???

???

???

???

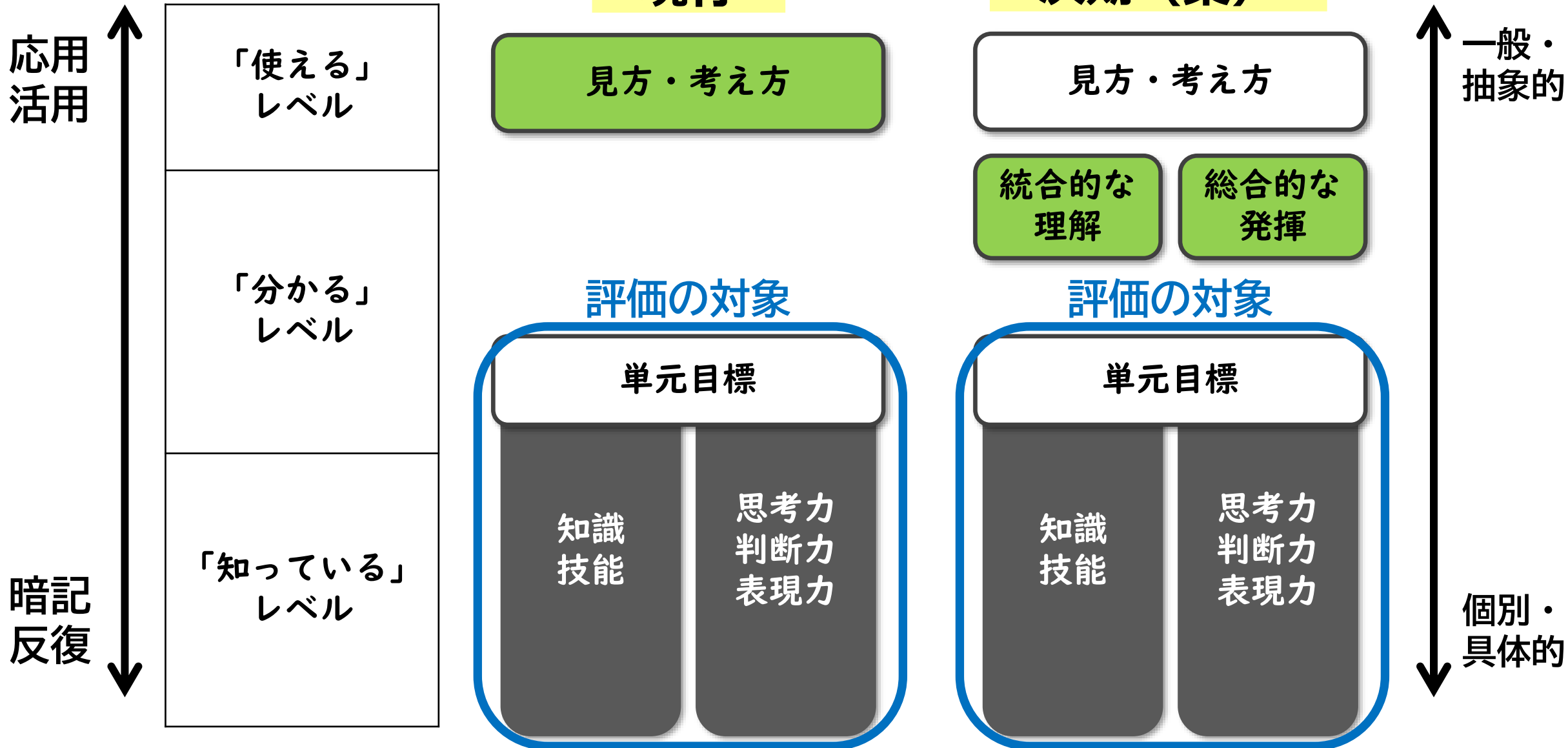
「知っている」レベル

「使える」レベル

(筆者作成)

学力のレベル

学習指導要領の内容



	改訂前	改訂後
小学校	元々活動は多め (グループ学習、学び合い、 ペアトークなど)	活動が更に増加
中学校 高校	元々活動は少なめ (講義中心)	あまり変わらず (依然として講義中心)

	現在の課題
小学校	● 活動と目標が合致していない（活動あって学びなし） ● 基礎的な内容の定着がおろそかに（「ミニゲーム」ばかりの授業） ● 一部の児童しか授業に「参加」していない
中学校 高校	● 生徒が知識を活用する場面が少ない（「ドリブル練習」ばかりの授業） ● 「使える」レベルの学力（＝「試合」で活躍できる力）を育てていない



（筆者作成）

学力のレベル

学習指導要領の内容

